

## 事後評価報告書(日本-インド研究交流)

1. 研究課題名:「対話システムのための顔特徴抽出と人間行動解析」

2. 研究代表者名:

2-1. 日本側研究代表者:情報通信研究機構 ユニバーサルコミュニケーション研究所  
研究マネージャー 山崎 達也

2-2. 相手側研究代表者:高度コンピューティング開発センター(C-DAC) 次長 Soma Mitra

3. 総合評価:( A )

4. 事後評価結果

### (1)研究成果の評価について

両国間の交流により、一定のレベルの研究成果を挙げたことが認められる。心情と顔の表情の対応付けは日本人とインド人では異なり、これを共通に対応付けられるシステムの構築は興味深い。ただし、全体的に、認識精度はそれほど高くなく、特に、「恐れ」の認識精度は30%しかないため、方式の改善が必要である。また、原著論文が投稿・採録されていないのは残念である。

### (2)交流成果の評価について

日本側のロボット技術、対話コミュニケーションに関する知見と、インド側の画像の数学的解析、アルゴリズム開発技術を相互補完的に融合させることにより、共同研究成果が生み出されたことは評価できる。ワークショップ、セミナーは数度開催しているが、共同シンポジウムの開催も望まれる。

### (3)その他(研究体制、成果の発表、成果の展開等)

特許出願がないのが残念である。顔表情や対話インタフェースは一般性、国際性の高い研究分野であり、部分的なアイデアのレベルでもよいので、海外出願も含め特許出願しておくことは今後の国際競争において重要と考えられる。